

2024 年度
産学連携教育プログラム
実施報告書

2024 年 12 月



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2024年度産学連携教育プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は130名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。それら修了生が実践から「働く」を考え社会人基礎力を養えたものと認識しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度の産学連携教育事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

プロジェクト企画実践コース 総合コーディネーター

桜沢 隆哉

京都女子大学 法学部 教授



プロジェクト企画実践コースでは、受入先企業・団体が提供するプロジェクトの最終目標を達成するため、学生が主体的に「計画」を立て、それを「実行」していきます。とくに実行する過程では想定外の困難に直面し、計画の甘さや実行力など様々な課題も明らかになってきます。この課題に気付くことこそが自分自身が成長するきっかけになるのだと考えています。

今年度も長期にわたるプロジェクトで学生を受け入れて下さった受入先企業・団体に感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

エクスターンシップ（就業体験）コース/ビジネスクラス

総合コーディネーター

多田 実

同志社大学 政策学部 教授



2024年度から変更になった「エクスターンシップ」という名称。まだまだ聞き慣れない呼び名だと思いますが、大学コンソーシアム京都が本プログラムで長年貫いてきた「教育プログラム」という基本スタンスが、ある意味、強調される名称ですので、原点に戻ったような気持ちになっています。これからも「初心」を忘れず取り組んでいきたいと考えておりますので、今後とも益々のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

エクスターンシップ（就業体験）コース/パブリッククラス

総合コーディネーター

古川 秀夫

龍谷大学 国際学部 教授



パブリッククラスでは、公共性や社会貢献を志向した実習プログラムが地方自治体や非営利組織から提供されています。受講生は、実習を通して公務員やNPO職員へのキャリア意識を醸成することとどまらず、市民の一員として享受する行政サービスの重要性やNPOの存在意義なども認識します。近い将来どんな職業に就いたとしても、受講生の全てが公共心あふれた善き市民になることを強く念願し、確信するものがあります。

目次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 産学連携教育事業の変遷	1
第2章 2024年度産学連携教育プログラムの実施内容	2
1 プログラムの概要	2
2 プロジェクト企画実践コースの実施内容	4
3 エクスターンシップ（就業体験）コースの実施内容	5
4 プログラムの運用にあたって	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から	8
第4章 受講生のアンケート結果から	14
第5章 今後の課題	27
1 産学連携教育プログラムをめぐる状況	27
2 財団における今後に向けた取組	27
<巻末資料>	
資料1 出願者・受講者数と受入企業・団体数について	28
資料2 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移	29
資料3 受入先登録企業・団体一覧	30
資料4 プロジェクト企画実践コース講義概要	32
資料5 プロジェクト企画実践コースプロジェクト別コーディネーター一覧	33
資料6 エクスターンシップ（就業体験）コース講義概要	34
資料7 エクスターンシップ（就業体験）コースコーディネーター一覧	35
資料8 受講生意識調査集計結果	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 産学連携教育事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」という。）が窓口となって実施する産学連携教育プログラム（以下「本プログラム」という。）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。中でも、2021年度以降、感染症等による社会状況の変化に対する学びの機会の確保等の観点から、選考面接、事前・事後講義についてなどオンラインを積極的に活用してプログラムを運営している。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」という。）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ6,000を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、延べ約1万名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

本プログラムの開始以降、全国の大学でも独自の取り組みが進められている。現在、インターンシップをはじめとするキャリア教育を実施している大学は、大幅に増加しており、大学生の課外活動として定着したと言える。他方で、2022年6月に一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」による協議を受けて、「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）が一部改正された。この基本的な考え方では「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が4つの類型に整理され、一定の要件を満たすインターンシップに限り、今年度以降に企業・団体が学生の情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。それを受け、大学コンソーシアム京都が実施するインターンシップ・プログラムは、タイプ2「キャリア教育」に位置づけられるプログラムとして実施することとし、本プログラムの名称を「産学連携教育プログラム」と改めた。これらの状況を鑑み、本プログラムも社会の変化に応じて、さらなる充実をめざすために、「産学連携教育事業企画検討委員会」にて、時代に即したプログラム等について検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間で産学連携教育プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生が本プログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

第2章 2024年度産学連携教育プログラムの実施内容

1 プログラムの概要

(1) コースの設定

ア プロジェクト企画実践コース(旧：長期プロジェクトコース)

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。プロジェクト期間は、6月から11月までの約5か月間で、年1回の実施である。

イ エクスターンシップ(就業体験)コース(旧：ビジネス・パブリックコース)

企業・行政機関・非営利組織において就業体験を行う実践型として実施する。実習期間は、8月から9月中旬までの間に10日以上で設定され、年1回の実施である。

(2) 受入企業・団体の登録

2024年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、約250の企業・団体に対し産学連携教育プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、キャリア教育プログラムとしての理解を得るための案内パンフレット及び受入先ガイドブックの送付並びに電話連絡を中心に、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、エクスターンシップ(就業体験)コースに129、プロジェクト企画実践コースに10、合計139の企業・団体からの登録を得た。

《 登録企業・団体内訳 》

	継続		復活※		新規		合計
エクスターン/ビジネス	86	(84)	9	(3)	4	(10)	129
エクスターン/パブリック	29	(29)	1	(2)	0	(2)	
プロジェクト企画実践	7	(11)	1	(1)	2	(0)	10
合計	122	(124)	11	(6)	6	(12)	139

※復活・・・昨年度未登録で、今年度に再登録のあった企業・団体数

(3) 学生の募集

学生募集にあたっては、主に募集ガイドブック、電子チラシ及びポータルサイトを中心に広報を実施した。本財団に加盟している大学のうち35大学、そして非加盟大学には16大学に募集ガイドブックを配布し、プログラム周知を依頼した。これらの資料は産学連携教育プログラム・ポータルサイトにも掲載し、学生が常に情報にアクセスできる環境を整えた。

各大学で開催されるインターンシップ説明会でのガイダンスを7大学で実施。また、例年、キャンパスプラザ京都で実施していた説明会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催とし、説明会では産学連携教育プログラムの全般的な説明の他、修了生による経験の共有、個別相談会での質疑応答等を行った。

ア 産学連携教育プログラム説明会・相談会

日時 4月13日(土) 18:00~20:30 参加学生数65名

会場 オンライン (Zoom)

内容 2024年度産学連携教育プログラムの概要説明

修了生(4名)による体験談

実習先からのメッセージ

ビーイングホールディングス株式会社

(株)ビーイング i p p o 代表取締役 苗代 弥 氏

株式会社ユニオン・エー

チーフマネージャー 山田 梨世 氏

修了生ブースによる相談会

イ プロジェクト企画実践コース説明会・相談会

日 時 4月18日(木) 18:00~20:30 参加学生数12名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2024年度産学連携教育プログラムの概要説明

受入先によるプロジェクト紹介

修了生(2名)による報告

受入先(10団体)・修了生(2名)による個別相談会

(4) 出願及び面接

本財団への加盟・非加盟を問わず、各大学の正規学生及び大学院生であれば、学部・学年を限定せず出願可能とした。

出願手続き及び面接については、学生の利便性向上等の観点から、昨年度に引き続き、Web出願、オンライン面接とした。面接は出願者全員に対して行い、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する観点で質問を行った。

ア Web出願

4月12日(金)~5月10日(金) 出願者159名

※最終5月11日(土)まで募集延長

イ オンライン面接 (Zoom)

5月17日(金) 15:30~19:30

5月18日(土) 10:00~16:30

(5) 選考及びマッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録に基づき決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討した上で、受講許可を与えた。

2024年度プログラムに登録した受入先企業・団体のうち、受入先による選考を選択したのは30、本財団による選考を選択したのは112であった。

なお、プロジェクト企画実践コースは、長期間にわたって実施するプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

(6) 受講手続

受講料は、2024年度も引き続き、プロジェクト企画実践コースで15,000円(加盟大学以外の学生は20,000円)、エクスターンシップ(就業体験)コースで10,000円(加盟大学以外の学生は15,000円)とし、講座運営費・保険料・施設利用料・その他諸費用に充てた。

(7) 参考：2024年度コース別出願者数 / 登録団体・受入団体数 ()内は2023年度実績

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
エクスターン/ビジネス	136 (178)	78 (104)	71 (100)	99 (97)	44 (54)	44.4% (55.7%)
エクスターン/パブリック		44 (49)	40 (40)	30 (33)	21 (20)	70.0% (60.6%)
プロジェクト企画実践	23 (15)	20 (15)	19 (13)	10 (12)	8 (6)	80.0% (50.0%)
合計	159 (193)	142 (168)	130 (153)	139 (142)	73 (80)	52.5% (56.3%)

2 プロジェクト企画実践コースの実施内容

(1) 実施プロジェクト

今年度のプロジェクト企画実践コースにエントリーした 10 団体が提供する 10 プロジェクトのうち、8プロジェクトが成立した。8プロジェクトの内容と受講者数は、巻末資料5のとおりである。

(2) 講義概要

ア プロジェクトの導入

オリエンテーションとしてプログラムの概要や諸注意等の説明を行った後、プロジェクト毎にミーティングを実施した。ミーティングでは、プロジェクトメンバーの相互理解を進めるとともに、受入先からの目標提示を受け、講義の最後に、各プロジェクトの概要を全体に発表した。

また、オンデマンド配信によりリスクマネジメント講習を実施し、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

イ プロジェクトの形成

プロジェクト形成の概要を学んだ上で、プロジェクトの目標、成果及び活動を明確にし、活動計画を設定し、他のチームの受講生と意見交換を行うことでプロジェクト活動の完成度を高めた。また、プロジェクト形成と併せて、映像コンテンツの活用方法を学ぶプレゼンテーショントレーニングを実施した。

特別講演では、プロジェクトを成功に導くために必要な、プロジェクトの構築とコミュニケーションをテーマにご講演いただいた。

<<講演概要>>

日時 2024年6月27日 18:30～19:30

テーマ プロジェクトの構築とコミュニケーション

講師 株式会社インサイトハウス CHO 兼 企業支援事業部長

太田 英樹 氏

ウ プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。プロジェクト活動については、対面を中心にインタビュー等を実施しながら、適宜、オンライン会議等によりチーム内で作業の進捗状況を共有した。

受講生は、サマーセッションとして映像コンテンツによる夏期活動中間報告を実施し、同セッションでは、今後の活動に係る個人ごとの目標について発表した。

エ プロジェクトの振り返り

プロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況の報告とそれに対する意見に基づき、プロジェクト・プレゼンテーションまでの目標等を確認した。また、プロジェクトの評価方法を学び、受

入先から提示のあった目標に対するアプローチの妥当性や有効性等について、プロジェクトごとに評価を行った。

オ プロジェクト報告・評価

講義最終日に、プロジェクト・プレゼンテーションを実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表した。また同日、今後のキャリア形成に向けて、プログラムの受講を通じた自己の変化を振り返る自己評価の時間を設けた。

受講生は、全てのプログラム終了後、プロジェクト報告書及び学習レポートを提出した。

3 エクスターンシップ（就業体験）コースの実施内容

(1) 実習受入れについて

今年度は、ビジネスクラスで44団体に78名、パブリックコースで21団体に44名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、巻末資料1のとおりである。

(2) 講義概要

今年度の事前学習及び事後学習については、昨年度に引き続き、社会状況の変化に対応できるよう全てオンラインにて開催した。講義内容については、以下のとおりである。

ア 事前学習

事前学習は、実習に向けた仮説と目標の設定と業界研究を通じたそれらの言語化を目的として、1クラス7名程度で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生17名、受入先企業・団体のご担当9名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

イ ビジネススキル研修

外部講師を招いて、コミュニケーショントレーニング及びスキルアップトレーニングを実施した。コミュニケーショントレーニングでは、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの基本、コミュニケーション能力等について学習した。また、スキルアップトレーニングでは、ロジカルシンキングの獲得を目指し、実践的理論を学んだ。

ウ リスクマネジメント講習

リスクマネジメント講習は、事前学習の初日及び最終講義日の2度に分けて実施した。講義では、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

エ 事後学習

実習で得た経験や課題等についてクラスで共有し、相互理解を深めた。また、他者の経験を踏まえた仮説の検証や成長点の確認により、プログラム終了後も継続する学生生活へと繋げた。

「実習経験交流会」では全クラスを3グループに分け、その中でクラスごとに発表の後、他クラスからのコメントを元にした振り返りを行った。他クラスの経験も学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

4 プログラムの運用にあたって

(1) 受入先企業・団体との連携

プロジェクト企画実践コースにおいては、出願受付の前に説明会を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

エクスターンシップ（就業体験）コースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、

受講生の実習日に、コーディネーターが受入先を訪問（オンライン面談及び電話を含む。）し、実習状況の確認を行った。

ア プロジェクト企画実践コース受入先ご担当者説明会

日 時 6月20日(木) 18:00～18:30

会 場 キャンパスプラザ京都

参加数 受入先ご担当者 8名

内 容 2024年度のプログラム概要及び担当コーディネーターとの方針確認

イ エクスターンシップ（就業体験）コース受入先ご担当者説明会

日 時 6月13日(木) 17:00～18:30

会 場 オンライン (Zoom)

参加数 受入先ご担当者 42名

内 容 2024年度産学連携教育プログラムの概要と講義内容について
実習生の受入れについて
受入先様による「プログラムに対する想い」
大和電設工業株式会社 土肥 遥 氏
受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

(2) 大学・短期大学との連携

学生の所属大学・短期大学と連携し、プログラムの広報及びプログラムの運営に係る情報共有を行った。プログラムの広報については、第2章1(3)のとおりであり、プログラムの運営に係る情報共有については、授業や課外活動がコロナ禍以前の状況に戻りつつある中での、実習の実施状況、受入先との連携及び学生対応の方針の共有を重点的に行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、産学連携教育事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

(3) 産学連携教育事業企画検討委員会

大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学連携による教育プログラムとして実施されている。

本委員会は、財団のミッションである大学間連携事業を推進する中で、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育としての産学連携教育事業を推進し、加盟大学の教育の質向上と実社会に則した教育効果のあるプログラムに資する検討の場としている。

上記目的を達成するために、本委員会で議題とする内容は、各コースコーディネーター会議や担当事業部会議においても報告し、また必要に応じて議題とし、事業運営の方針となりうるよう綿密に連携を取り進めることとしている。

ア 教育プログラムとしての質的向上に向けた主な審議事項

- ・2025年度実施方針の策定に向けた課題について

イ 開催日程

- 第1回 2024年6月28日(金)
- 第2回 2024年10月25日(金)
- 第3回 2024年12月6日(金)
- 第4回 2025年2月21日(金)

ウ 産学連携教育事業企画検討委員会構成委員

- 委員長 古川 秀夫 龍谷大学 国際学部 教授
- 副委員長 多田 実 同志社大学 政策学部 教授
- 委員 桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部 教授
- 黒宮 一太 京都文教大学 総合社会学部 准教授
- 濱田 崇嘉 龍谷大学 経営学部 准教授
- 坂本 清彦 龍谷大学 社会学部 准教授
- 木下 翔吾 大谷大学 学生支援部キャリアセンター
- 中西 善彦 京都先端科学大学 インターンシップ推進課
- 代崎 拓也 京都文教大学 就職部就職進路課
- 青柳 祐 立命館大学 キャリアオフィス
- 渡邊 直裕 京都産業大学キャリア教育センター
- 石川 武 喜一工具株式会社 取締役社長
- 土肥 遥 大和電設工業株式会社

4 リスクマネジメント

(1) 三者協定書の締結

実習及び単位認定が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「実習生派遣に関する協定書」を締結した。

(2) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

なお、2024年度については、保険金請求事例は発生しなかった。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500万円／入院保険金日額 4,500円／通院保険金日額 3,000円

【賠償責任保険】 てん補限度額 1億円（自己負担額 0円）

(3) ハラスメントに対する取組

ハラスメント相談窓口を設置し、実習生をサポートする体制を整えている。ハラスメント相談窓口については、オリエンテーション及びリスクマネジメント講習にて受講生に案内した。また、受入先に対しては、ハラスメント対策について、各コース受入先ご担当者説明会にて説明を行った。

第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度の産学連携教育プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると96.8%であった。また、次年度の受入れ予定については、65.6%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており(2023年度は77.5%、2022年度は70.4%)、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

エクスターンシップ(就業体験)コース	2024年9月下旬(実習終了後)
プロジェクト企画実践コース	2024年11月中旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
エクスターンシップ(就業体験)コース/ビジネス	44	39	88.6%
エクスターンシップ(就業体験)コース/パブリック	21	17	81.0%
プロジェクト企画実践コース	8	8	100.0%
総計	73	64	87.7%

II. アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、実習生のマッチングについてはいかがでしたか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①満足している	33	84.6%	15	88.2%	8	100.0%
②どちらでもない	6	15.4%	2	11.8%	0	0.0%
③不満がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

【①の理由】

- ・留学生の方にお越しいただきました。当地は外国人旅行者が多く実習生のご堪能な英語が非常に助かりました。
- ・何事もまじめに熱心に取り組んでいただきました。
- ・意欲的に楽しみながら取り組む様子が見られました。
- ・意欲的な学生だった
- ・しっかり学んだ
- ・不動産業界を目指している学生だったから
- ・観光や旅行に興味を持った実習生であったため。
- ・学生が主体的に取り組んでいたため。
- ・大学職員という職業に対する興味・関心が高く、意欲的に取り組んでいただけました。
- ・実習生の希望に沿った内容にしたため。
- ・本学及び大学職員を志望している学生であったため
- ・学生の観点から学生支援を捉えてもらい、学生の立場に寄り添う提案をしてもらうことができました。
- ・実習生全員が意欲的にかつ真面目に取り組んでいたため
- ・質問などから興味を持って頂いているのがよく分かった。
- ・積極的に楽しんで取り組んでいた。
- ・とても真面目で優秀な学生さんでした
- ・今回お二人の方を受け入れましたが、それぞれの個性を發揮しつつ、業務内容も十分理解して取り組んで頂けたので。
- ・営業をやってみたいという想いがあり、業界は決めていなかったが、まず見てみようという想いで何でも前向きに取り組んでいた。実際に当初は関心のなかった技術職についても面白いと感じてくれた。
- ・サービスや業務内容に興味をもっていた
- ・学習者との関わりだけでなく、事務作業も含めて準備を行ったが、"見えにくい仕事"もあるという部分を理解し取り組んでいたと話してくれたため。
- ・第一志望が本市かどうかということにかかわらず、実習に真剣に取り組んでいただくことができました。学生さんの就職先の選択肢が広がるきっかけになれば良いと考えております。
- ・誠実に各活動に参加し、成果も残していただきました。
- ・コンソーシアムからの参加者は、防衛省事務官に興味があり、応募していただいた認識です。今回は自衛官特有の課題、自衛官・事務官共通の課題について学んでいただけました。
- ・受入れ担当部署の業務に関心の高い実習生であり、終始熱心な姿勢で実習に臨んでおられたため。
- ・実習生は、真面目に、そして熱心に取り組んでいただいたことから。
- ・基本的には人数に関係なく、弊社のプログラムを「第一希望」に挙げてくれた学生がいたので

- ・学生主体のスケジュールで進んで、当社はアドバイスのみでしっかりやってくれた
- ・私どものPJにとっても関心が高く、自発的に検討、行動する方をマッチングしていただき満足しております。
- ・今年も途中で投げ出すことなく頑張れる学生さんが来てくださいました。お引き合わせ、ありがとうございます！
- ・皆さん一生懸命頑張ってくれました。指導や指摘したことにも素直に反応して、訂正や工夫を重ねてくれて、非常にやりやすかったです。
- ・3回生2人に1回生1人で大変バランスの取れたマッチングで姉妹のように仲良く活動していた

【②の理由】

- ・就労意識があまり高くなかったため
- ・希望する人数に達していなかったため
- ・学部や本人の経験によって実習内容を合わせているため。
- ・基本的には問題ないと思うが、本人が思っていた実習内容ではなかったという感想を持たれたため。
- ・過去に受け入れた実習生と比較すると、今回は実習生に物足りなさを感じたところがあったため。

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	21	53.8%	5	29.4%	1	12.5%
②社員の補助的な業務の一部を体験	8	20.5%	9	52.9%	0	0.0%
③社員の通常業務以外の業務	4	10.3%	1	5.9%	3	37.5%
④見学を中心に実施	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
⑥その他	2	5.1%	2	11.8%	4	50.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

【⑥その他の記述欄】

- ・法律事務所の実際を体験していただきました。
- ・②及び③を体験（部署により内容が異なるため）
- ・自衛隊（自衛官）が実施する実技・座学の体験

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	33	84.6%	15	88.2%	7	87.5%
1円～4,999円	2	5.1%	1	5.9%	0	0.0%
5,000円～9,999円	2	5.1%	1	5.9%	0	0.0%
10,000円～19,999円	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
20,000円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

その他：交通費実費支給

●次年度の産学連携教育プログラム受入れについてお伺いします。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	25	64.1%	11	64.7%	6	75.0%
②受入れない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③未定	14	35.9%	6	35.3%	2	25.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	36	92.3%	16	94.1%	8	100.0%
②ふつう	2	5.1%	1	5.9%	0	0.0%
③真剣さを感じられなかった	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

●学生自身に成長があったと思えますか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	38	97.4%	16	94.1%	8	100.0%
②どちらともいえない	1	2.6%	1	5.9%	0	0.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	13	33.3%	8	47.1%	3	37.5%
②自主性・独創性の育成	12	30.8%	9	52.9%	7	87.5%
③キャリア形成	13	33.3%	9	52.9%	3	37.5%
④問題解決能力の向上	13	33.3%	10	58.8%	8	100.0%
⑤多様な価値観の認識	19	48.7%	10	58.8%	5	62.5%
⑥コミュニケーション能力の向上	25	64.1%	10	58.8%	6	75.0%
⑦プレゼンテーション能力の向上	13	33.3%	4	23.5%	3	37.5%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	10	25.6%	8	47.1%	4	50.0%
⑨その他	2	5.1%	2	11.8%	1	12.5%

【⑨その他の記述欄】

- ・各々の案件について、問題点などについてディスカッションすることができました。
- ・自己肯定
- ・成長というより元々持っておられる能力だと考えています。
- ・実習を通して、多くの人と関わったり、さまざまな体験を行うことで、自身の強み・弱みなどを自分で多少把握できたのではないかと。

3. 産学連携教育プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行う産学連携教育プログラムに参加された一番の理由は何ですか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①コンソーシアム京都の加盟大学との強化	6	15.4%	1	5.9%	1	12.5%
②指導することにより社員の育成になるから	6	15.4%	0	0.0%	0	0.0%
③学生への自社PRのため	2	5.1%	5	29.4%	0	0.0%
④採用活動につなげたいから	9	23.1%	4	23.5%	0	0.0%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	3	7.7%	2	11.8%	1	12.5%
⑥社会貢献	12	30.8%	3	17.6%	5	62.5%
⑦その他	1	2.6%	2	11.8%	1	12.5%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

【⑦その他の記述欄】

- ・国が進める観光立国を成し得るためのピースであるDMOという組織を知ってもらうことで、業界に興味を持つ方をひとりでも獲得したいため。また、受入れによって社内の風通しが良くなることを期待して受入れを希望しました。
- ・ご本人のモチベーションUPに貢献したいと考えています。
- ・青少年育成の観点
- ・学生の就業意欲の向上に寄与し、職員の指導力の向上や職場の活性化に繋げるため
- ・明確に目的がないが、継続して参画させていただき有意義と思っている

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	6	15.4%	1	5.9%	0	0.0%
②職場活性化	7	17.9%	3	17.6%	0	0.0%
③指導する社員の成長	6	15.4%	0	0.0%	0	0.0%
④自社のPR・広報・宣伝	0	0.0%	5	29.4%	1	12.5%
⑤優秀な学生との出会い	9	23.1%	4	23.5%	2	25.0%
⑥新たな企画開発	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
⑦社会貢献	8	20.5%	3	17.6%	3	37.5%
⑧その他	1	2.6%	1	5.9%	2	25.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	22	56.4%	10	58.8%	4	50.0%
②事前の準備に時間・コストがかかる	9	23.1%	6	35.3%	1	12.5%
③安全への配慮に手間がかかる	1	2.6%	0	0.0%	0	0.0%
④情報漏えいが不安である	2	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
⑤その他	5	12.8%	1	5.9%	3	37.5%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

【⑤その他の記述欄】

- ・滞在先（住まい）の確保が難しいこと。
- ・会社関係人口の拡大
- ・活動地域への貢献
- ・特にありません。

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	17	43.6%	8	47.1%
②ない	15	38.5%	1	5.9%
③新卒採用を行っていない	2	5.1%	2	11.8%
④わからない	5	12.8%	6	35.3%
総計	39	100.0%	17	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	8	50.0%	6	75.0%
②選考過程で採用には至らなかった	7	27.8%	1	12.5%
③不明	1	11.1%	0	0.0%
無回答	1	11.1%	1	12.5%
総計	17	100.0%	8	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から実習生（大学生）を受け入れていますか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①はい	24	61.5%	16	94.1%	5	62.5%
②いいえ	15	38.5%	1	5.9%	3	37.5%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

●産学連携教育プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	エクスターンシップ ビジネス		エクスターンシップ パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に満足	14	35.9%	4	23.5%	2	25.0%
②かなり満足	19	48.7%	9	52.9%	5	62.5%
③やや満足	5	12.8%	3	17.6%	1	12.5%
④やや不満	1	2.6%	1	5.9%	0	0.0%
⑤かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	39	100.0%	17	100.0%	8	100.0%

Ⅲ. ご意見・ご要望について（自由記述欄より抜粋）

本項目については、実習実施後調査書自由記述より抜粋したものを原文のまま掲載する。
ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

《エクスターンシップ（就業体験）コース満足度の理由について》

製造（食品）	学生からよい刺激を頂きました。
製造（食品）	毎年積極的に取り組む学生さんばかりなので事前指導が良いと感じる
製造（アパレル・繊維）	毎回違うタイプの学生さんが来られるが、新しい視点があり気づかされる事も多いです
製造（半導体・精密機器）	学生さんの成長を目で見て感じる事が出来たため。
マスコミ・広告・印刷・出版	就業以外でインターン生との連絡がスムーズにいかない事が何度かあった（遅刻・欠席時）
マスコミ・広告・印刷・出版	例年より極端に志望学生が少なかったのが残念でした。制度の変更で全体的に志望学生が少なくなったのか、単に弊社が人気がなかったのか、少し気になりました。
情報・通信・IT	課題への取り組みと実習で興味を持ってくれたので、ありがたかったです。
小売・販売・専門店	ご参加いただいた学生さんに、当社が関係する業界や職種、または当社自体に興味を持っていただくきっかけになったと思います。
小売・販売・専門店	学生と事前や事後においてもしっかりと丁寧にご対応されている様子が伺えました。
金融・証券・保険	文面や学生の取り組み姿勢、応対は素晴らしいと思います。
不動産・建築設計	皆さま意欲的に取り組んでくださったため
不動産・建築設計	参加学生の意欲
士業（法律・会計事務所）	学生にアルバイトではなく社会の実務経験をしてもらう意義は大きい
士業（法律・会計事務所）	法曹を目指す学生に事務所の実際を見ていただけることは、将来のモチベーションUPにつながると考えています。
ホテル・旅館	毎年受け入れておりますが、観光業界の仕事に関してもっと興味をもってもらえ、事前に頂いたレポートもしっかりかけていたため。
ホテル・旅館	実習の最後に面談したのですが、「なかなか体験できないことを今回の実習を通して経験でき、とても充実した10日間でした、」とおっしゃっていただいたので、こちらとしても大変嬉しかったです。
エンタテインメント	特に今年は学生の成長度合いが大きかった
教育（学校・大学等）	実習前に、参加学生には学習の機会が設けられ、実習で得たいものを考えられるようにしており、受入先にもその内容を共有していただけるため。
教育（学校・大学等）	実習生の希望とマッチしていたこともあり、大変意欲的に取り組んでいただきました。
教育（学校・大学等）	実習生の受入に伴い、部署の雰囲気が明るくなった。また、職員にとっても業務の趣旨等を再確認する良い機会となった。
教育（学校・大学等）	実習生の想いをくみ取る上で、本学とコンソーシアム京都様の連携がもう少し深まればより良いものになると感じます。
教育（学校・大学等）	受入を行ったことで指導員の私も他部署の仕事内容を深く知ることができたため。
教育（学校・大学等）	意欲の高い学生が参加しており、学生の成長も見られ、こちらも刺激を受けました。実習そのものは大変有意義であると感じました。
教育（学校・大学等）	学生の方たちが積極的に子ども達と関わりながらも、普段、大学では違う学部に通っておられるので学習意欲が高いと感じました。
その他	学生が真剣に取り組んでくれたため。
その他	業界全体や業務内容に興味のある実習生に参加いただき、前向きに取り組んでいただけたことは良かったが、実習が10日間にも及ぶと、実習内容の構成が難しい。
官公庁	優秀で意欲、適正のある学生をマッチングしていただき、業務の助けになりました。また、職員の刺激にもなりました。
官公庁	実習生と受入れ部署のマッチングが良好であったと感じるため。実習生の成長を感じることができたため。
官公庁	参加された学生全員がしっかりと実習に取り組んでいただき、受入所属の満足度も高かったため。
官公庁	学生と接する機会を設けることができ、本市職員にとっても良い機会となったため。
官公庁	コンソーシアム側による選考・事前教育の結果、取り組みに前向きな学生が参加しているため。
官公庁	実習生へのアンケートにおいて、参加してよかったという声が多かったため。
官公庁	実習生が真面目に積極的に取り組んでくれ、受け入れ先の事業実施にあたって力を発揮してくれたことに感謝しています。
官公庁	実習生がとても意欲的に取り組んでいたため
官公庁	当方にもメリットがある。
官公庁	今回来られた学生の方より、実習の内容について自分が思っていたものではなかったとの声があった。貴法人を通して学生様には実習の内容が伝わっているという認識だったので、現場の職員としては戸惑う部分がありました。
非営利組織	全体を把握している訳ではございませんが、当方としては非常に満足しております。
非営利組織	例年参加させていただいており、幾許か社会貢献できたかと考えております。
非営利組織	自らの気付きや学びを言語化（9/14の発表時）していたため。
非営利組織	夏休み入ってすぐのイベントへの参加などもあり、実習生のことも把握できず、また実習生自身も、イベントの詳細を知らずにいきなり実習が始まるため、どこまで安全に運営できるかの不安はあります。

《エクスターンシップ（就業体験）コース プログラムの改善点について》

不動産・建築設計	身だしなみなどは、事前学習があればよりよくなると思いました
教育（学校・大学等）	前回今回ともに受け入れた実習生から「メールの返信の仕方や名刺交換の仕方等」冊子に書いているだけで講義として教わっていないと仰っておりました。しかし、事前学習のマナー講座では講義として指導しているとのことでしたが、学生へ伝わっていない可能性があり、毎年受け入れる際、ビジネスマナーを教えるところからスタートをしておりますので、講義の中身の改善のご検討をいただけますと幸いです。
教育（学校・大学等）	他部署との調整でかなり負荷が掛かっている。状況において受入日数を調整させていただきたい（5～10日間で実施など）。提出する書類も多いことから少しでも負担を減らしていただきたい。また学生の最終報告の時間であるがプログラムの日数に対して非常に短く感じてしまうため、もう少し学生に時間を与えていただきたい。
官公庁	昨年度も同じ内容で受け入れをさせていただいており、実習の内容は貴法人も把握されているかと思えますので、学生の方に対して十分に説明をし、理解の上で申し込みを受け付けていただきますようお願い致します。（現場からの意見）
官公庁	企業のことを深く理解するためにプロジェクト企画実践コースや10日間のエクスターンシップ（就業体験）コースは有効だと考えますが、5日間程度の短期間のインターンシップ・プログラムも選べる選択肢もあっても良いように思います（実習生および受入企業等の負担が軽減されるため。）。
官公庁	実習日数を10日間の固定ではなく、実習日を6～10日間などにはどうか。
非営利組織	実習生へのアンケートにおいて、事前レポートや事後レポートの枚数が多く、学生にとって負担になっているとの声があった。
官公庁	実習生の選考期間をもう少し長めに設定してほしい。
官公庁	無理かもしれませんが、実習時期を7月後半、小学生の夏休み時期に合わせて始められたら良いのと思います。
非営利組織	リアルな職場体験ということで地味な作業も多いので、その点について、事前に学生の皆様に理解を得られていたら良かったかと思えます。
非営利組織	大きく改善とかではないが、強いて言うなら、事前レポートの提出があまり実習生のプラスになっていないように感じる。過去はそこまででなかったが、最近は今年度も含めて的外れのレポートを拝見することが多くなっている印象を受けている。

《プロジェクト企画実践コース満足度の理由について》

・連携によるプログラムを継続して実施している。プログラム全体が充実している。
・受入側として対応に余裕を持つことができず、どの関係者に対しても深く踏み込むことができなかった。
・まだ当社の内容充実が不足しているが今後に期待しています。
・大学生の講義内容が学生にとって有益で、コーディネーターによるご支援が大変良かった。
・いつもご丁寧にご対応くださり感謝しております。
・忙しくてあまり参加できずに申し訳なかったですが、しっかりとした内容で良いと思いました。
・学生にとっても今後の日本社会にとっても大変有意義な活動だと感じた。

《プロジェクト企画実践コース ご意見・ご要望について》

・当方の課題ですが、日程を合わせるのが難しい状況があります。
・座学と実習先とのプログラムになかなか一体感が生まれにくいと感じる。毎回の講義のテーマに、参加受入企業からピックアップしてケーススタディにするなど、横のつながりや情報共有でプログラム全体に一体感が出せないかと思ったりしています。
・引き続き当プログラムの継続をよろしくお願いします。
・学生さんの質がよくて感心しました。
・プロジェクト内容を企業からではなく、学生発信がよいのではないかと感じた。やらされるよりやりたい事を。

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度の産学連携教育プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の83.4%であった。また、成長感については、97.2%が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長に繋がるとともに、多くの受講生にとって、就職することに対する意識の醸成や卒業までの目標を定める機会となったことが確認できる。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

エクスターンシップ（就業体験）コース	2024年9月14日～10月1日
プロジェクト企画実践コース	2024年11月09日～11月17日

2. 回答数

	回答数
エクスターンシップ（就業体験）コース/ビジネスクラス	60
エクスターンシップ（就業体験）コース/パブリッククラス	35
プロジェクト企画実践コース	14
総計	109

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	エクスターンシップ（就業体験）コース				プロジェクト企画実践コース	
	ビジネス		パブリック			
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①大変満足	39	65.0%	25	71.4%	7	50.0%
②満足	18	30.0%	9	25.7%	5	35.7%
③どちらでもない	0	0.0%	0	0.0%	2	14.3%
④不満	2	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑤とても不満	1	1.7%	1	2.9%	0	0.0%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①基幹的業務の一部を体験	25	41.7%	9	25.7%
②補助的業務の一部を体験	12	20.0%	18	51.4%
③通常業務以外の業務	3	5.0%	3	8.6%
④見学を中心に実施	10	16.7%	3	8.6%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	9	15.0%	0	0.0%
⑥その他	1	1.7%	2	5.7%
総計	60	100.0%	35	100.0%

【その他の記述内容】

- ・座学、社員との交流等
- ・社員の一部業務と体験と、プロジェクト提案

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
7日未満	0	0.0%	0	0.0%
7～9日	7	11.7%	4	11.4%
10日	45	75.0%	22	62.9%
11～15日	8	13.3%	8	22.9%
16～29日	0	0.0%	1	2.9%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
総計	60	100.0%	35	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

エクスターンシップ（就業体験）コース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
7日未満	0	0	0	0	0	0
7～9日	1	1	7	1	0	10
10日	2	14	46	4	1	67
11～15日	0	6	10	0	0	16
16日以上	0	1	1	0	0	2
総計	3	22	64	5	1	95

プロジェクト企画実践コース

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
6月～11月	0	2	10	2	0	14

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思えますか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	58	96.7%	34	97.1%	14	100.0%
②どちらともいえない	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
③成長があったと思えない	1	1.7%	1	2.9%	0	0.0%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	23	38.3%	9	25.7%	2	14.3%
②自主性・独創性の育成	24	40.0%	13	37.1%	8	57.1%
③キャリア形成	34	56.7%	17	48.6%	6	42.9%
④問題解決能力の向上	17	28.3%	8	22.9%	10	71.4%
⑤多様な価値観の認識	32	53.3%	14	40.0%	9	64.3%
⑥コミュニケーション能力の向上	38	63.3%	19	54.3%	10	71.4%
⑦プレゼンテーション能力の向上	25	41.7%	6	17.1%	8	57.1%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	23	38.3%	16	45.7%	5	35.7%
⑨その他	3	5.0%	1	2.9%	1	7.1%

【その他の記述内容】

- ・不動産業界に関する知識が増えた。
- ・子どもの成長に伴う関わり方
- ・日常生活における意識の変化
- ・働く事の実感

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	19	31.7%	12	34.3%	2	14.3%
②やや就職したい	25	41.7%	18	51.4%	6	42.9%
③あまり就職したくない	10	16.7%	3	8.6%	5	35.7%
④就職したくない	6	10.0%	2	5.7%	1	7.1%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	26	43.3%	14	40.0%	1	7.1%
②やや就職したい	23	38.3%	17	48.6%	8	57.1%
③あまり就職したくない	8	13.3%	2	5.7%	5	35.7%
④就職したくない	3	5.0%	2	5.7%	0	0.0%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①強く思うようになった	23	38.3%	10	28.6%	3	21.4%
②少し思うようになった	17	28.3%	17	48.6%	6	42.9%
③それほど変化はなかった	20	33.3%	7	20.0%	5	35.7%
④少ししたくないと思うようになった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤強くしたくないと思うようになった	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	48	80.0%	29	82.9%	12	85.7%
②変わらない	11	18.3%	5	14.3%	1	7.1%
③悪くなった	1	1.7%	1	2.9%	1	7.1%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

●実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	3.3%	2	5.7%	0	0.0%
②あまり思わない	5	8.3%	1	2.9%	2	14.3%
③どちらでもない	3	5.0%	2	5.7%	2	14.3%
④思う	24	40.0%	15	42.9%	7	50.0%
⑤とてもそう思う	26	43.3%	15	42.9%	3	21.4%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

2) 受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%
②あまり思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③どちらでもない	3	5.0%	0	0.0%	1	7.1%
④思う	15	25.0%	12	34.3%	2	14.3%
⑤とてもそう思う	42	70.0%	21	60.0%	11	78.6%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%
②あまり思わない	4	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
③どちらでもない	5	8.3%	5	14.3%	1	7.1%
④思う	32	53.3%	21	60.0%	9	64.3%
⑤とてもそう思う	19	31.7%	8	22.9%	4	28.6%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.7%	2	5.7%	0	0.0%
②あまり思わない	3	5.0%	4	11.4%	1	7.1%
③どちらでもない	6	10.0%	11	31.4%	3	21.4%
④思う	30	50.0%	13	37.1%	7	50.0%
⑤とてもそう思う	20	33.3%	5	14.3%	3	21.4%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%
②あまり思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%
③どちらでもない	15	25.0%	7	20.0%	0	0.0%
④思う	22	36.7%	15	42.9%	4	28.6%
⑤とてもそう思う	23	38.3%	11	31.4%	9	64.3%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.7%	1	2.9%	0	0.0%
②あまり思わない	5	8.3%	4	11.4%	2	14.3%
③どちらでもない	16	26.7%	4	11.4%	6	42.9%
④思う	20	33.3%	14	40.0%	1	7.1%
⑤とてもそう思う	18	30.0%	12	34.3%	5	35.7%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	8	13.3%	2	5.7%	2	14.3%
③どちらでもない	16	26.7%	9	25.7%	3	21.4%
④思う	24	40.0%	14	40.0%	7	50.0%
⑤とてもそう思う	11	18.3%	10	28.6%	2	14.3%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	3.3%	1	2.9%	0	0.0%
②あまり思わない	3	5.0%	7	20.0%	1	7.1%
③どちらでもない	10	16.7%	8	22.9%	2	14.3%
④思う	24	40.0%	8	22.9%	8	57.1%
⑤とてもそう思う	21	35.0%	11	31.4%	3	21.4%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

●実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	9	15.0%	3	8.6%	3	21.4%
②やや不安だ	31	51.7%	19	54.3%	4	28.6%
③どちらでもない	4	6.7%	5	14.3%	2	14.3%
④あまり不安ではない	16	26.7%	7	20.0%	4	28.6%
⑤不安でない	0	0.0%	1	2.9%	1	7.1%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	7	11.7%	6	17.1%	1	7.1%
②やや不安だ	17	28.3%	13	37.1%	4	28.6%
③どちらでもない	12	20.0%	4	11.4%	4	28.6%
④あまり不安ではない	19	31.7%	9	25.7%	4	28.6%
⑤不安でない	5	8.3%	3	8.6%	1	7.1%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	8	13.3%	5	14.3%	5	35.7%
②やや不安だ	22	36.7%	20	57.1%	2	14.3%
③どちらでもない	12	20.0%	6	17.1%	2	14.3%
④あまり不安ではない	14	23.3%	2	5.7%	3	21.4%
⑤不安でない	4	6.7%	2	5.7%	2	14.3%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	7	11.7%	5	14.3%	2	14.3%
②やや不安だ	13	21.7%	7	20.0%	3	21.4%
③どちらでもない	11	18.3%	12	34.3%	0	0.0%
④あまり不安ではない	20	33.3%	7	20.0%	6	42.9%
⑤不安でない	9	15.0%	4	11.4%	3	21.4%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

3. 産学連携教育プログラムについて

●産学連携教育プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		プロジェクト企画実践	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②やや不満	4	6.7%	2	5.7%	1	7.1%
③どちらでもない	4	6.7%	7	20.0%	0	0.0%
④やや満足	19	31.7%	17	48.6%	3	21.4%
⑤非常に満足	33	55.0%	9	25.7%	10	71.4%
総計	60	100.0%	35	100.0%	14	100.0%

Ⅲ. エクスターンシップ（就業体験）コース「実習経験交流会」について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

● 発表を聞いての感想

- 発表は、どこのグループでも話す内容が異なっていてそれぞれのクラスの色がすごく出ていたように思いました。他のクラスの方々の発表を聞くことで、違う業種について知る機会になったり、その業種や企業さんに対しての印象が変化したりし、発表の中でまた違う視点を得て、新たな業種への興味を持つきっかけとなりました。このような機会を頂いて幸いです。ありがとうございました。
- 単に自分の中で振り返るよりも人に伝えることで、より詳しく実習を振り返る良い機会になった。また他の実習生の発表を聞くことで、他の実習先の業界にも興味を持てた。
- 自身の体験した職種以外についても詳しく知ることができて新鮮でした。皆、当初のイメージと違う経験があったという点が共通していました。普段関わることのない仕事の内容等も学生の発表により間接的に知ることができたことから、非常に有益な時間でした。
- 様々な実習先の特色や今後の就職活動に繋がるような情報がたくさんありました。また、他の実習生がどのようなことをしてきたのかを知る貴重な機会であると考えます。
- 合同企業説明会の時と同じように、自分が知らない企業を他のゼミの発表を通して、多く知ることができて良かった。
- ただ、報告を聞くのではなくパワーポイントの作り方、分かりやすい説明、実習先での目標設定など自分ではしていないなと感じたところを報告会で知れたりすることがとても良かったと感じましたし、自分の成長につながったと感じました。
- 皆それぞれの職場、人間関係のもとで時間を過ごしていたのだということを改めて実感した。違う職種の経験も知ることができて面白かった。
- 皆さん、各々独特な視点をもって自分の実習先の業界を見つめており、また目標と結果がしっかり明言されている点にも自身の成長に対する意識の高さを感じ取ることができました。また、同じゼミクラスでは PowerPoint 資料をものすごい質で作成してきている方もおり、短く簡素に纏めた自分のと比べて圧倒されました。
- 他の業種を志望する人たちと意見を交流する場があり、どんな雰囲気なのかわかるのが良かった。
- 他の班の発表は8分なのかと疑うほど、内容が詰まっていると感じた。全員が、実習にとっても満足しているように見えた。
- 様々な企業があり、今度はこの企業のインターンシップに参加したいと考えるようになりました。
- 3グループでは人数が多く間延びしたように感じた。

● 発表時間及び準備について

- 発表時間は、少し短いためペース配分が難しかったです。ただ多くの班の発表を聞くことができた点はメリットだとも思いました。準備時間はちょうど良かったです。
- 準備時間としては、事前に準備をしているということもありちょうど良い時間設定であったと思います。
- 準備時間は、大体ちょうどいいかと思いますが、もう少し時間があればもっとこだわった報告ができ

たのかと思います。発表時間もちょうどいいと思います。

- ▶ 準備時間は少し短かったように思う。また事前に、昨年度はどのような発表だったかなど、例になるものがあった方がやりやすかった。
- ▶ 準備時間は、実習時期にもよるがちょうど良かったと思う。発表時間は、聞く側としては眠くならず興味を持って聞いていられたが、話す側としては伝えたいこと伝えきれないなという部分があった。
- ▶ みんなで、一回通して発表の練習をしてみるということがなかったので、準備時間に練習しておけばもう少しスムーズに発表できたかと思います。
- ▶ 発表時間は実習での経験が一人一人の実習生にたくさんあったと考えるため、時間をもう少し長くとることが出来れば良いなと考えます。また、準備時間は適切だったと思います。
- ▶ 発表時間は適切であると考え。準備時間は、私のグループは既に準備していたから足りたが、事後学習中だけでは厳しいと考える。
- ▶ 準発表時間が 1 ゼミクラス 15 分と限られていて、私のゼミクラスは 8 人もいたので 1 人の発表時間がどうしても「2 分未満」と短くなってしまい、時間があれば伝えられる内容も聴いている側からは伝わりにくかったように思う。
- ▶ 双方とも、特に問題点はないかと。まあ、交流会での発表時間に関しては少し短いかなと感じる部分もありましたが、「短くかつわかりやすく伝える練習」という観点から見ればちょうど良いのかもかもしれませんね。
- ▶ 準備どちらも短い気がします。せっかくの学びにも関わらず、慌てて準備・発表することで、アウトプットの機会が失われていると感じます。

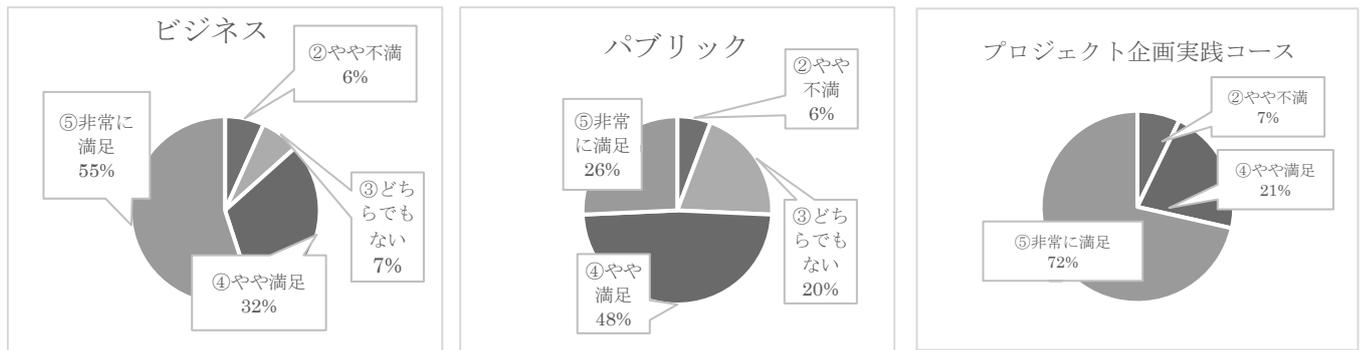
● その他の意見

- ▶ 発表は実習先ごとでしたかったです。
- ▶ 事前レポートや事後レポートの指定文字数が、他の授業よりも、比較的多かったため、文章力を鍛えることができたと思います。
- ▶ 紙面の日誌のデータが、Web 上にないものもあったので、実習先に大学コンソーシアム京都へ問い合わせさせていただき、手間を取らせてしまったと感じてしまった。

IV. 意見・感想について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

●全体を通して



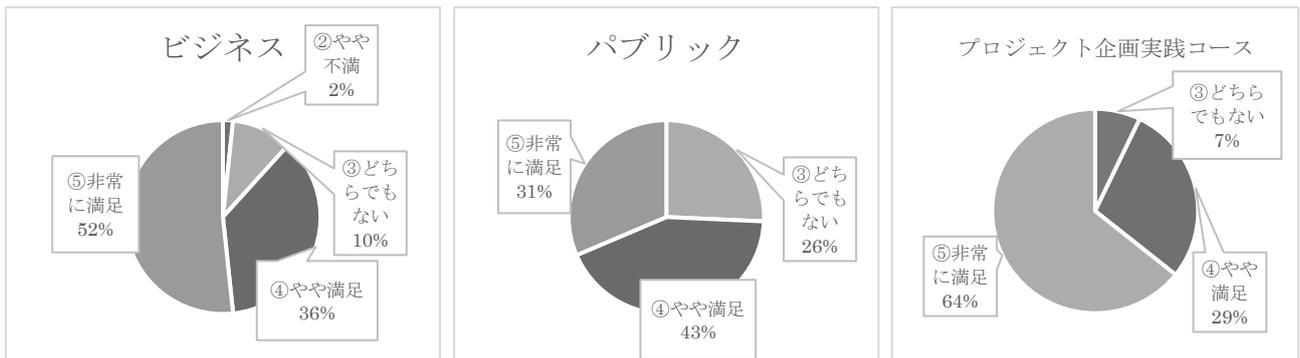
《エクスターンシップ（就業体験）コース》

- 本当にこのプログラムに応募してよかったです。実習先では業務以外にも働く大変さも楽しさも分かりました。このプログラムは事前学習と事後学習もあるので、実習前にしっかりと目標設定をし、それを叶えたいというマインドになって実習に挑めましたし、そこで得た反省や学びを事後学習で振り返ることができたので良かったです。
- 当該プログラムは、社会人としての基礎から実践、振り返りまでを一連の流れで行うことができました。ここが他のインターンと比較した時に大きな利点だと感じました。
- これまで経験したことのない事を経験することができ、これからの自分自身の道を明確にすることができました。他大学の学生と交流する機会があり、非常にためになりました。
- 就活で何をやって良いのか分からず過ごしていたが、課題が提示されることで、やらなければいけないという状況になったことが良かった。
- 2 回生ぐらいで最初に就職に向けて何かをしたいと考えている人にとっては一番挑戦しやすい内容ではないかなと思いました。実際に私がそうでした。最初から最後までサポートしてくださっていたので行いやすかったです。
- 事前事後学習によって、実習前と実習後に自分がどのように変化したかが明確になり、参加してよかったと思う。
- 自分に何が足りないのか、自分の強みは何なのか知ることができ、とても有意義な時間となりました。このプログラムの存在を教えていただいた先生、事前学習・事後学習を通してお世話になった教員の皆様本当にありがとうございます。
- 私にとってはじめてのインターンシップであるため、事前学習はとてありがたい時間でした。
- 実習先によって内容にもばらつきはあると思うが、実習中にディスカッションなど時間が増えればアウトプットにもなって嬉しいと感じた。
- 感想としては、自分の現在の立ち位置と将来設計のいい下地になったのではないかと考えています。本当にありがとうございました。
- 単に実習を行って終了ではないことが自己成長につながりました。発言の場や、職員・先生からのフィードバックもあり大変勉強になりました。ありがとうございました。

《プロジェクト企画実践コース》

- 他大学の人と交流できたから
- 自分に自信がついたから
- それぞれ違う受け入れ先で活動されている実習生と講義内で関わりをまたことができ、自分たちの受け入れ先で学ぶこと以外のことも学び、参考にすることができたため。また、自分たちの受け入れ先以外の実習先の方々と一緒に活動して下さった教員の方も含め、自分たちの意見を客観的に捉えたアドバイスや創造をしやすい空間、雰囲気を作っていただけのため。
- 自分のアンケート回答をチャートにしたものを見て、最初の時点からこのプログラムを通じて成長できたことを実感できたため。様々な方の話を聞いて仕事に対する視野が広がったし、他の実習生との交流はとても刺激になった。実習先の方や担当教員の方は適度な距離感で見守りながらも軌道が外れそうになるとその都度アドバイスをくださってありがたかった。プロジェクトを通じて自分の得意・不得意が明確になって自己理解が深まった。また発表の機会が多く設けられ訓練になったし、コミュニケーションの方法も学べた。他のインターンは単に企業に対する知識を得ることが多いが、プロジェクト企画コースは自分のこと、働くこと、今まで知らなかった深いことがたくさん知れた。参加して本当に良かったと思う。
- 自分のやってみたいことと合っていたから。
- 学校では学べないことを多く学び、自分と向き合う時間が多くあったから。
- 課題との向き合い方、プロジェクトの具体的な構築方法、目標と目的及びアウトプットとアウトカムの違い、KPIの指標の出し方を、企画実行の経験が浅い方でも理解できるように、講義において、より丁寧に提示してほしいと思ったからです。
- 大きな成長の機会になり、終了した際に自信をもてるようになっていたため。
- 長期のプロジェクトという、学生のうちにはなかなか経験できないような貴重な経験をさせてもらえたから。
- 参加したことに全く後悔がなく、参加前と比べて意識が上がったため。
- 当初、自分が掲げていた目標を達成することができたと感じたというのが一番大きな理由です。また、最初の頃には気づけなかった自分なのかの魅力を見つけることができたと思うので、非常に満足しています。
- 活動を終えた時の達成感が非常に高い。また事務局の方やコーディネーターの先生方等関係者が皆さんととても優しく感じられたから。
- 自分自身にとってプラスになる経験となった。

●事務局について



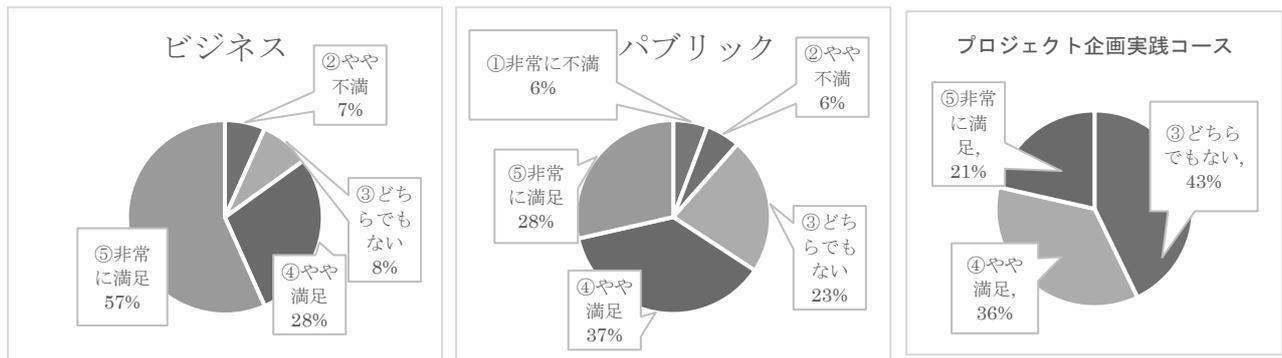
《エクスターンシップ（就業体験）コース》

- 連絡など早急に対応していただき安心して受講することができた。
- スケジュールの設定や事前学習・事後学習の運営ありがとうございます。そして事前訪問の際は仲介に入っていただきありがとうございました。
- ネット環境が悪かったり、プログラムについて不明な点がある際に迅速丁寧なご対応をいただき、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 電話が込み合っとなかなか繋がらない時もありましたが、出でくださった事務局の方には迅速に対応していただいたと思います。
- メールを送った際に受け付け完了メールを頂けるのはとても親切だなと感じました。
- 提出物を出した時に自動返信メールしか来ないため、本当に届いているのか少し不安に感じた。

《プロジェクト企画実践コース》

- 機材関連、その他実習に関してや連絡事項を事細かに教えていただけたので、予定をしっかりと立てることができ嬉しく思いました。
- とても親切に対応していただきありがたかった。陰で見守り支えられているという安心感はプロジェクトにとっても良い影響をもたらした。
- 明るく接してもらって、ありがたいです。
- こちらの不都合を毎回丁寧に対応してくださいました。
- プロジェクトの広報活動でとてもお世話になりました。急なお願いにも、真摯に対応していただきました。誠にありがとうございます。
- 遅刻や欠席の対応を厳しくしてほしいです。

●コーディネーターについて



《エクスターンシップ（就業体験）コース》

- 居ると居ないとでは、雲泥の差が出ると考えています。特にインターンシップで何をしたらいいのかわからない初心者にとっては、天の助けになりえます。私の場合、3回時での本番のインターンシップに向けての予習という意味合いも込めてプログラムに参加しましたが、やはり大学の就職支援でマイナビ等の講演を聞いたり、関連書籍を読んで対策するよりも手につきやすくかつ理解度も深くなると思います。クラスがゼミ単位に分けられており、徹底した少人数教育がなされている点も大きな魅力です。
- 特にレポートや発表に厚みを持たせることへの意義を学ぶことができました。内容は簡単にはまとめられないものでしたが、教授の助言をいただくことで完成できたと思います。本当にありがとうございました。
- 事前学習から事後学習までの長い期間お世話になりました。どのような考えで実習に挑むべきかなどたくさんのお話を教えていただき、実習がより良いものとなりました。
- 私たちの意思を尊重してくださったように思います。グループワークでの進め方や発表については、細かな指定が無く、自分たち主体で作上げていき、意見を発信しやすい場であったと思います。その為、自由度が高く、活発的な意見交換をすることができており、様々な取組みに対しスムーズに進めることができていたように思います。
- 生徒一人一人をしっかりと観察されてアドバイスをいただきました。先生ご自身も、外国へ赴いて研究されるなど、他の業務等でもお忙しい中、当該授業の資料作成を行っていただき、大変お世話になりました。
- 優しく指導し、挑戦を見守ってくださってありがとうございました。オリジナルのワークシートも見やすく、自己分析に大変役に立ちました。
- 優しくて自分で気づけなかった能力見つけてくれるなど生徒に寄り添っていた。
- コーディネーターの先生が非常に明るく否定せずにアドバイスをいただいたおかげで、クラスの雰囲気も良かった。
- ユーモアある講義が毎回とても楽しかったです。初回以降メモを取る癖がつきました！また機会があれば直接お会いしたいです！

《プロジェクト企画実践コース》

- アドバイスをたくさんいただいた。
- 私たちのアイデアや意見を促進するアドバイスがいただけるととても嬉しく思いました。
- 講義の中でちょっとしたワークをするのは理解が深まって良かった。もっとワークを増やしても良いとも思う。話の内容は参考になるものが多くとても良かった。ただ、話している時間が少し長い気がするので、もう少し短くすると良いのではと思う。また毎回スライドの内容を全部コピーするのは大変だと思うので、データを配布するか、抜粋してコピーしてもらえるとありがたい。
- 同じ目線で接してくれたので、コミュニケーションがしやすい空間になったと思います。また、議論が行き詰ったときには、的確な助言をくださいました。
- 他のプロジェクトと兼任されていたので、相談したいなや先生の意見を聞きたいときにあまりいてもらえておらず、学生だけで不安なときがあり、私は多かったです。
- 私の理解力不足もありますが、言い回しが少し難しかったです。
- 自分たちの至らぬ点をサポートしてくださいました。

第5章 今後の課題

1 産学連携教育プログラム（旧インターンシップ・プログラム）をめぐる状況

財団による産学連携教育プログラムは、1998年度から26にわたり大学と連携し、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育プログラムとしてインターンシップの充実を図ってきた。

近年、インターンシップの社会的普及の中で、全国の大学、企業・団体がそれぞれ独自にインターンシップ・プログラムを展開し、企業・団体による採用を目的としたインターンシップの増加が顕著となっている。そうした中、一般社団法人日本経済団体連合会と大学関係団体等の代表者により構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」からの提言を受けて、文部科学省、厚生労働省、経済産業省は「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」を2022年6月に一部改正した。この基本的考え方では、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」が四つの類型に整理され、要件を満たすインターンシップに限り、今年度以降に企業団体が学生情報を広報活動・採用選考活動に使用できることとされた。これは大学等におけるキャリア形成の取り組みの位置づけを変えるものではないが、産業界と大学等が積極的に関与し、推進していくことを求める内容となっている。

財団が実施する産学連携教育プログラムは、基本理念に掲げる通り、キャリア教育の一環としての産官学地域連携による教育プログラムであり、採用に直結するものとは異なり、「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を教育目標としている。4つの類型においては、タイプ2に該当する「キャリア教育」として実施しており、2024年度から財団が実施する「インターンシップ・プログラム」の名称を「産学連携教育プログラム」へと変更した。インターンシップの位置づけが多様化している中であるからこそ、本プログラムの位置づけと目標を学生、受入先企業・団体、大学に対してより一層、明確に発信していく必要がある。

2 財団における今後に向けた取組

産学連携教育プログラムは、大学と企業・団体の連携により、就業体験の域を超えた、実践から「働く」を考えるキャリア教育プログラムとして、大学間連携のキャリア形成プログラムとしては全国でも最大規模の取り組みとなっている。

財団が進める中期計画第6ステージプラン（2024年度～2028年度）において、本プログラムが目指すものとして、コロナ禍以降続く社会変化に対応し、学生の学びと成長、企業・団体の活性化に寄与する教育プログラムを推進する。具体的には次の3点について取り組む。

ひとつめは、オンラインツールのメリットを活かし、実習生を指導・サポートするコーディネーターとの緊密な連携を通して、本プログラムにおける双方向の教育実践の取組のさらなる進化を目指していく。

二つめに、京都府・京都市と連携のうえ、受入先としての登録を促進する方策を検討するなど、新規の受入先登録を広く呼び掛けるとともに、受入先企業・団体が受入しやすい時期を選択できるよう、夏季休暇期間以外の実習実施の可能性について模索し、受入先の拡充を目指すこととする。

三つめには、受入先がプログラムに期待し設定する人材育成、組織の活性化、社会貢献などの目標・課題について、学生を送り出す大学との間で共有するとともに、企業・団体と大学が様々な場面で結びつきが強まることを企図して、「受入先実習プログラム研究会」のさらなる発展など、交流促進の機会を提供できるよう進めていく。

資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について

1) コース別 出願者数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
エクスターンシップ/ビジネス	136	78	71	99	44	44.4%
エクスターンシップ/パブリック		44	40	30	21	70.0%
プロジェクト企画実践	23	20	19	10	8	80.0%
合計	159	142	130	139	73	52.5%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	17	10.7%	15	10.6%	88.2%
2年次(回生)	46	28.9%	42	29.6%	91.3%
3年次(回生)	91	57.2%	81	57.0%	89.0%
4年次(回生)	2	1.3%	1	0.7%	50.0%
5年次以上(回生)	1	0.6%	1	0.7%	100.0%
大学院生	2	1.3%	2	1.4%	100.0%
合計	159	100.0%	142	100.0%	89.3%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	65	40.9%	56	39.4%	86.2%
女性	94	59.1%	86	60.6%	91.5%
合計	159	100.0%	142	100.0%	89.3%

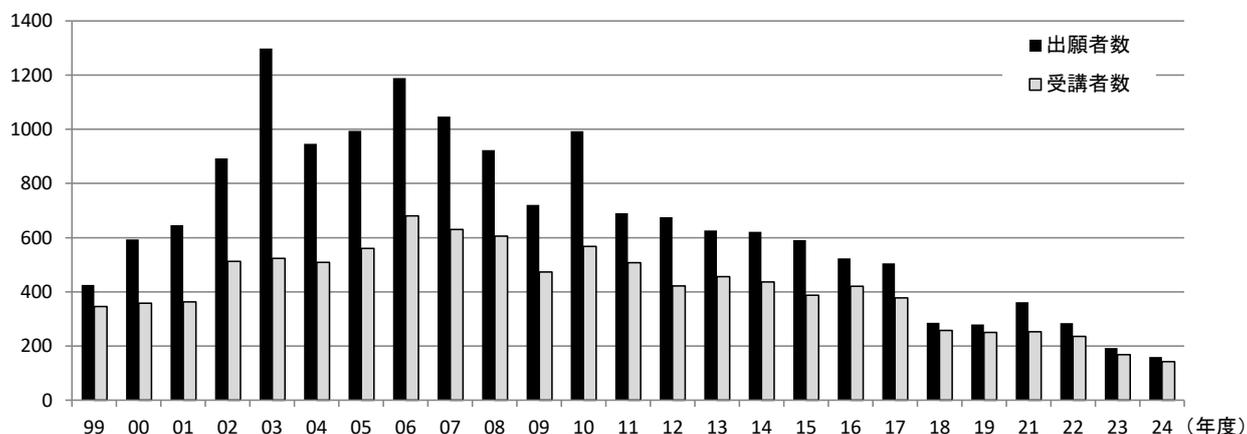
4) 大学別 出願者数

	大学名		出願者数	実習許可者数		大学名		出願者数	実習許可者数
加盟大学	京都大学※大学院生含む	2	2	加盟大学	京都文教大学	8	8		
	京都教育大学	3	3		京都文教短期大学	0	0		
	京都工芸繊維大学	0	0		京都薬科大学	1	1		
	京都市立芸術大学	0	0		嵯峨美術大学	0	0		
	京都府立大学	13	13		嵯峨美術短期大学	0	0		
	京都府立医科大学	0	0		種智院大学	0	0		
	福知山公立大学	1	1		成安造形大学	8	7		
	池坊短期大学	0	0		同志社大学※大学院生含む	36	34		
	大谷大学	15	13		同志社女子大学	2	2		
	京都医療科学大学	0	0		花園大学	6	5		
	京都外国語大学	3	2		佛教大学	7	6		
	京都外国語短期大学	0	0		平安女学院大学	0	0		
	京都華頂大学	0	0		明治国際医療大学	0	0		
	華頂短期大学	0	0		立命館大学	8	5		
	京都看護大学	0	0		龍谷大学※大学院生含む	17	16		
	京都経済短期大学	0	0		龍谷大学短期大学部	0	0		
	京都芸術大学	0	0		大阪医科薬科大学	0	0		
	京都光華女子大学	4	4		京都情報大学院大学	0	0		
	京都光華女子大学短期大学部	0	0		放送大学 京都学習センター	0	0		
	京都産業大学	8	7		非加盟大学	関西大学	1	1	
	京都女子大学	8	6			近畿大学	1	1	
	京都精華大学	0	0			明治大学	1	1	
	京都西山短期大学	1	1			岡山大学	1	0	
	京都先端科学大学	1	1			北九州市立大学	1	0	
	京都橘大学	1	1			出願者総数	159	142	
	京都ノートルダム女子大学	1	1						
	京都美術工芸大学	0	0						

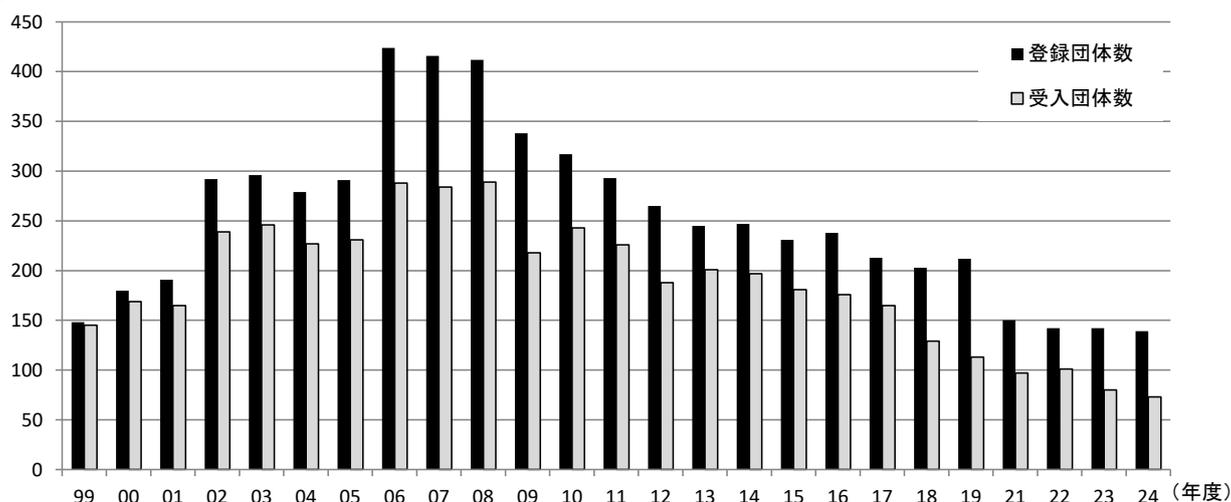
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター（CO）数の推移

年度	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	21	22	23	24
出願者数	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505	286	279	362	285	193	159
受講者数	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378	257	250	253	235	168	142
登録団体数	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213	203	212	150	142	142	139
受入団体数	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165	129	113	97	101	80	73
CO人数	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33	24	24	22	24	24	24

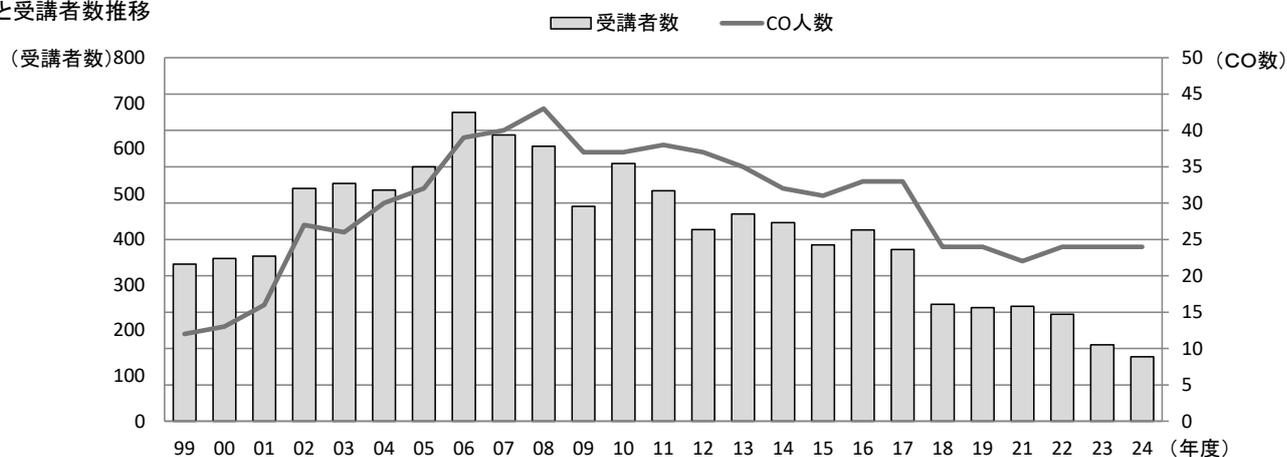
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講者数推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

エクスターン(就業体験)シップ/ビジネスクラス

■製造(食品)

株式会社石田老舗
 亀屋良長株式会社
 株式会社俵屋吉富
 丹波ワイン株式会社
 株式会社西利

■製造(アパレル・繊維)

岡山工芸株式会社

■製造(電気機械設備)

株式会社カシフジ
 寺崎電気産業株式会社
 東邦電気産業株式会社
 日工電子工業株式会社
 由利ロール株式会社
 和晃技研株式会社

■製造(半導体・精密機器)

株式会社魁半導体
 株式会社積進

■製造(その他)

株式会社ShinSei
 株式会社セイワ工業
 株式会社箭木木工所

■マスコミ・広告・印刷・出版

アートム株式会社
 株式会社京都通信社
 株式会社文化時報社
 宮川印刷株式会社
 株式会社ユニオン・エー
 株式会社らくたび

■情報・通信・IT

協和テクノロジズ株式会社
 株式会社クラックスシステム
 株式会社KCNなんたん
 大和電設工業株式会社
 株式会社ディレクターズ・ユニブ

■商社・卸売

株式会社佐野
 株式会社ヒトミ
 富士フィルムビジネスイノベーション
 ジャパン株式会社京都支社

■小売・販売・専門店

京都生活協同組合
 生活協同組合コープしが
 株式会社ハートフレンド
 (総合食品スーパーフレスコ)
 株式会社花工房

■金融・証券・保険

株式会社葵総合保険
 株式会社エスアールエム
 SMBC日興証券株式会社
 西村証券株式会社
 株式会社ラクール保険事務所

■不動産・建築設計

株式会社エルハウジング
 京都駅ビル開発株式会社
 株式会社空間デザイン
 株式会社クレバー
 恵星建設株式会社
 有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
 株式会社長栄
 株式会社莫設計同人
 株式会社フラットエージェンシー
 株式会社ローバー都市建築事務所

■士業(法律・会計事務所)

弁理士法人京都国際特許事務所
 税理士法人京都ビジコン
 こもだ法律事務所
 弁護士法人中村利雄法律事務所

■コンサルティング・調査・研究

株式会社地域未来研究所
 株式会社Hibana
 株式会社ユメコム

■ホテル・旅館

RRH京都オペレーションズ合同会社
 リーガロイヤルホテル京都
 ウェスティン都ホテル京都
 株式会社近鉄・都ホテルズ
 都ホテル京都八条

株式会社国華荘 びわ湖花街道

株式会社西武・プリンスホテルズ
 ワールドワイド ザ・プリンス京都宝ヶ池

里湯昔話 雄山荘

株式会社西武・プリンスホテルズ
 ワールドワイド びわ湖大津プリンスホテル

柵家株式会社

株式会社ニュー・オータニ
 ホテルニューオータニ大阪

■観光・旅行

オーバルオプテックス株式会社
 京都新聞企画事業株式会社
 (京都新聞旅行センター)

西陣くらしの美術館富田屋

有限会社丸益西村屋

■エンタテインメント

ビーイングホールディングス株式会社

■レジャー・アミューズメント

株式会社志摩スペイン村
 株式会社ビックスマイル

■医療・福祉

社会福祉法人京都福祉サービス協会
 社会福祉法人十条龍谷会

社会福祉法人清和園

京都市久世特別養護老人ホーム

医療法人社団 千春会

社会福祉法人同胞会 DOHOグループ

■デザイン

株式会社ジイケイ京都

■人材ビジネス

株式会社OVO

エクスターン(就業体験)シップ/ビジネスクラス**■安全・メンテナンス・清掃**

株式会社アイアム

株式会社ワタナベ美装

■運輸・物流

株式会社塚腰運送(Tsukagoshiグループ)

■教育(学校・大学等)

大谷大学

京都外国語大学 京都外国語短期大学

京都光華女子大学・

京都光華女子大学短期大学部

国立大学法人京都工芸繊維大学

京都産業大学

京都女子大学

京都精華大学

京都国際マンガミュージアム

京都先端科学大学

京都文教大学

社会福祉法人熊千代会

こぐま上野保育園

公益財団法人大学コンソーシアム京都

同志社大学

学校法人龍谷大学

■その他

特定非営利活動法人

明日の京都文化遺産プラットフォーム

公益財団法人

京都市音楽芸術文化振興財団

公益財団法人びわ湖芸術文化財団

エクスターン(就業体験)シップ/パブリッククラス**■官公庁**

綾部市役所

宇治市役所

近江八幡市

亀岡市役所

京田辺市

京都市

京都府庁

草津市役所

滋賀県庁

摂津市

長岡京市役所

東近江市役所

彦根市

防衛省 自衛隊京都地方協力本部

河原町募集案内所

宮津市役所

守山市役所

野洲市

栗東市役所

■非営利組織

一般財団法人大阪教育文化振興財団

特定非営利活動法人気候ネットワーク

特定非営利活動法人京都藝際交流協会

京都市野外活動施設 花背山の家

公益財団法人京都市ユースサービス協会

一般社団法人京都府北部

地域連携都市圏振興社 伊根地域本部

一般財団法人京都ユースホステル協会

公益財団法人公害地域再生センター

(あおぞら財団)

特定非営利活動法人 子育て支援コミュニティ

おふいずパワーアップ

特定非営利活動法人 子ども自立の郷

ウォームアップスクールここから

特定非営利活動法人とよなか市民環境会議

アジェンダ21

認定NPO法人びわこ豊穡の郷

プロジェクト企画実践コース

株式会社インサイトハウス

一般社団法人Impact Hub Kyoto

株式会社大槻シール印刷

関西巻取箔工業株式会社(KANMAKI)

特定非営利活動法人気候ネットワーク

つねよし百貨店

株式会社ヒューマンフォーラム

株式会社MOTHERS

株式会社ユニオン・エー

株式会社ワイングロッサリー

資料4. プロジェクト企画実践コース講義概要

全体の流れ	コマ数	日程	時間	講義名	講義単位	内容	実施場所	
プロジェクトの導入	第1講	6/20 (木)	18:30～19:00 (30)	オリエンテーション(プログラムの概要)	全受講生	プログラムの概要、諸注意、事務連絡、担当コーディネーターの紹介。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
			19:00～19:30 (30)	プロジェクトの導入		プロジェクトの概念について理解する。		
	19:40～21:10 (90)		プロジェクトのテーマの共有とチーム形成 (受入先に対する理解とプロジェクトのアイデア出し)	受入先の事業目的と課題を理解し、チーム形成に繋げる。				
受入先事前訪問期間: 6月21日(金)～7月3日(水)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打ち合わせを行い、プロジェクトについて指導、アドバイスを受ける。(プロジェクトごとに設ける)								
プロジェクトの形成	第3講	6/27 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの構築とコミュニケーション	全受講生	プロジェクトを成功に導くコミュニケーションを学ぶ。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第4講		19:40～21:10 (90)	プロジェクトマネジメント概論	全受講生	プロジェクトの形成と管理の概要を理解する。(ワークシート①から④までの理解と共有)		
	第5講	7/4 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの形成 (プロジェクトの目的と目標の設定)	全受講生	受入先の事業に対する理解を踏まえて、プロジェクトのアイデアを出す。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第6講		19:40～21:10 (90)		各プロジェクト			
	第7講	7/11 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの管理	全受講生	コーディネーターからの講義を通じて、プロジェクト管理の手法を学ぶ。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第8講		19:40～21:10 (90)	プロジェクトの形成 (目的と目標の共有、タスク分析)	各プロジェクト	プロジェクトのアイデア発表とガントチャートの作成。		
	第9講	7/18 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクトの形成 (作業タスクの洗い出し、スケジュールの作成)	各プロジェクト	ワークシートに取り組み、プロジェクトの作業タスクとスケジュールを作成する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第10講		19:40～21:10 (90)	プロジェクト・マネジメント (進捗の共有)	全受講生	他のチームの受講生との意見交換を行い、プロジェクト活動の完成度を高める。		
	予備日	7/25 (木)	18:30～19:30 (60)	※夏期休暇前に講義休止が発生した場合の予備日。				キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施
	予備日		19:40～21:10 (90)					
	夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。							
	第11講	9/5 (木)	16:50～17:50 (60)	プレゼンテーショントレーニング	全受講生	プロジェクトの夏期活動中間報告に向けて効果的なプレゼンテーション手法を学ぶ。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第12講		18:00～19:30 (90)	サマーセッション プロジェクト・マネジメント (プロジェクトの現状把握と課題整理)	各プロジェクト	これまでの活動を振り返ってプロジェクトの現状を把握し、ワークシートを通して課題を整理する。		
第13講	19:40～21:10 (90)							
夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。								
プロジェクトの振り返り	第14講	10/3 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動報告)	各プロジェクト	映像を作成して、それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇中の活動を報告しあい、質問や感想を交換する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第15講		19:40～21:10 (90)					
	第16講	10/10 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクト・マネジメント (プロジェクトのアウトプットの最終確認)	各プロジェクト	受入先とコミュニケーションを取りながら、ワークシートの全体像を確認する。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第17講		19:40～21:10 (90)					
	第18講	10/24 (木)	18:30～19:30 (60)	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト・プレゼンテーションにむけた準備)	各プロジェクト	プロジェクト・プレゼンテーションにむけた準備を行う。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第19講		19:40～21:10 (90)					
	予備日	10/31 (木)	18:30～19:30 (60)	※夏期休暇後に講義休止が発生した場合の予備日。				キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施
予備日	19:40～21:10 (90)							
プロジェクト報告・評価	第20講	11/9 (土)	10:40～12:10 (90)	プロジェクト・マネジメント (自己評価: プログラム受講を通して自己の変化を振り返る)	全受講生	プログラム受講を通じた自己の変化を振り返る。	キャンパスプラザ京都またはオンライン(ZOOM)での実施	
	第21講		13:00～14:30 (90)	プロジェクト・プレゼンテーション 修了式		約5ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに活動報告を行う。全体で、それぞれのプロジェクトの到達点について相互評価を行い、今後の学生生活の目標を明らかにする。		
	第22講		14:40～15:40 (60)					
	第23講		15:50～17:50 (120)					

●講義は感染症の拡大状況他、その他の社会状況によりキャンパスプラザ京都(対面)またはオンライン(ZOOM)にて実施します。

●7月、8月、9月の毎週少なくとも1回は受入先または実習現場(オンラインを含む)での活動を行います。

●学習レポートおよびプロジェクト報告書 提出期間: 11月9日(土)～14日(木) ※最終日の締切は 12:00(正午) です。(時間厳守)

資料5. プロジェクト企画実践コース プロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講者数	コーディネーター
特定非営利活動法人 気候ネットワーク	【脱炭素社会と再生可能エネルギー 100%実現に向けた調査・情報発信】 脱炭素社会の実現に向けて「再生可能エネルギー100%実現」「脱炭素地域づくり」に関する情報収集・発信、調査研究、イベント開催、広報等を行います。新しいスキルを身につけ、構想力・創造力・企画力の向上につながる体験をしてください！	2	◎桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部
株式会社 インサイトハウス	【きょうのやましなさんプロジェクト】 山科を歩き回り、子供から大人、お年寄りまで様々な方の想いやストーリーを聴き、集め、インタビュー記事として形にして、HP、Facebook、フリーペーパー、回覧板、絵本などを通して地域の人々向けに発信。まずは「自身が楽しむ」をモットーに活動していただきます。	2	平賀 緑 京都橘大学 経済学部
関西巻取箔工業 株式会社 (KANMAKI)	【「つくる」×「つたえる」のチカラを学ぼう！】 今のものづくりで「つくる」のは、商品(プロダクト)だけじゃない。情報(コンテンツ)や企業文化(カルチャー)もちゃんとつくって、それを「つたえる」ことが大切です。そのサイクルをKANMAKIの仕事を通じて学んでいただき、これからの就活やお仕事人生に活かしていただきたいと思っています。	2	西村 雅信 京都工芸繊維大学大学 院 工芸科学研究科 デザイン・建築学系
株式会社 大槻シール印刷	【Rediscovery Label おもしろい新商品シール開発】 当社は「まちのシール屋さん」。シールは身近な存在ですが、その使い道はまだ未開拓。シール印刷の実際を理解して、新しい感覚の商品の企画開発から製品の完成、ネット等での販売方法を考え実践します。学生さんの感性に期待しています！	3	◎桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部
一般社団法人 Impact Hub Kyoto	【～花背フィールドラボプロジェクト～】 花背は、千年以上の歴史を持つ祇園祭のちまき笹の採集地で歴史的背景から「都の源泉」と呼ばれています。そんな花背をフィールドに暮らしや生き方を学び、祇園祭のちまき笹の再生を目指しながら「文化と経済の循環」を京都の場で進めていきましょう。	2	○坂本 清彦 龍谷大学 社会学部
株式会社 ユニオン・エー	【若者向け就職情報フリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」を悩める学生に発信しよう！】 16歳～30代の若者に向けた就職情報誌「おっちゃんとおばちゃん」を企画・発行しています。就活を始める前、または就活真っ只中で、自分の進路悩んでいる学生や若者の手に届けたいです。企画から一緒に考えましょう。媒体についてはもちろん、皆さん自身が「働く」についてじっくり考える機会にしたいです。	2	小辻 寿規 立命館大学 共通教育推進機構
株式会社 ワイングロッサリー	【学生向けワインセミナー 企画・開催】 高級ワイン専門店ワイングロッサリーの仕事を通じてワインを学び、学生向けのワインセミナーの企画に挑戦してください。企画力、計画力、実行力、柔軟性が養われます。世界の共通語でもあるワインに詳しくなることで、今後の社会人としての幅も広がります。 ※20歳以上の方のみ応募可能	3	藤村 佳子 京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部
株式会社 MOTHERS	【サンガスタジアムのフードコートをバズらせろ！】 サンガスタジアムのフードコート店舗を中心として、京都サンガF.C.とのコラボ商品開発や飲食店運営のマーケティング戦略を企画して運営していただきます。仕事は楽しくなければ意味がない！人生をワクワクして生きるヒントがココにあります！	3	築地 達郎 龍谷大学 社会学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料6. エクスターンシップ（就業体験）コース講義概要

	日程	コマ数	時間	講義名	講義単位	内容	
事前学習	6/22 (土)	第1講	10:00～10:30 (30)	オリエンテーション①: プログラム参加にあたって	全受講生	プログラムの概要やプログラムに臨む心構え等を説明します。	
			10:30～11:00 (30)	リスクマネジメント講習①: 事前学習に向けての心構え		プログラムを受講する上でのリスクマネジメントを学びます。	
		第2講	11:20～12:50 (90)	クラスの相互理解	クラス	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をしあいます。	
		第3講	13:50～15:20 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定 ①	クラス	グループディスカッションを中心として、仮説と実習目標設定のための意見交換を行います。	
		第4講	15:30～16:30 (60)			コミュニケーショントレーニング	就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。オンラインでのコミュニケーションの取り方を学びます。
	第5講	16:40～18:10 (90)					
	受入先との事前打合せ(初顔合わせ):6月27日(木)～7月12日(金)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打合せを行い、 実習内容・期間の確認、事前学習レポート作成に向けてアドバイス等の指導を受ける。						
	7/6 (土)	第6講	10:00～11:30 (90)	業界と社会に対する学習①	クラス	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をもとに受入先について探求し、事前学習レポート作成のポイントを学び、内容を深めます。	
			11:40～12:40 (60)	業界と社会に対する学習②			
		第8講	13:40～15:10 (90)	スキルアップトレーニング	クラス	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。オンラインでのグループワーク、コミュニケーションの取り方を学びます。	
第9講		15:20～16:50 (90)					
7/13 (土)	第10講	10:00～11:30 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定 ②	クラス	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目標を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。		
	第11講	12:30～14:00 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定 ③	クラス	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目標を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。		
	第12講	14:10～15:40 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定 ④	クラス	事前学習レポートの内容をより深めます。		
	第13講	16:00～17:00 (60)	リスクマネジメント講習②:実習・ 事後学習に向けての心構え	全受講生	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。実習にあたっての準備、確認・注意事項を確認します。		
17:00～17:30 (30)		オリエンテーション②:実習・事後 学習に向けての事務連絡	レポート提出、実習中、事後学習に必要なポイント説明、事務連絡を行います。				
7/20 (土)	予備日	10:00～18:00	※事前学習日に講義休止が発生した場合の予備日				
実習	実習の実施（原則として8月1日(木)～9月13日(金)の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。）						
補講日	9/7 (土)	補講日	9:00～10:30 (90) 10:50～12:20 (90)	※クラスによって実施される場合があります			
事後学習	9/14 (土)	第14講	10:00～11:00 (60)	実習経験の共有①	クラス	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。	
		第15講	11:10～12:10 (60)	実習経験の共有②			
		第16講	13:10～14:40 (90)	実習経験の共有③	クラス	実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をまとめます。	
		第17講	15:00～16:30 (90)	実習経験交流会	クラス グループ	実習を通して学んだことをクラスごとに発表し、他のクラスの発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学習レポートの内容に反映させます。	
	第18講	16:40～17:40 (60)	実習経験の振り返り／全体講評 ／修了式	他のクラスからのコメントを踏まえ各クラスで振り返りを行った後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。			
9/21 (土)	予備日	10:00～18:00	※事後学習日に講義休止が発生した場合の予備日				

■事前学習レポート提出期間:7月13日(土)～20日(土)

■事後学習レポート提出期間:9月14日(土)～9月28日(土) ※事前/事後学習レポート提出最終日の締切は12:00です。(時間厳守)

資料7. エクスターンシップ（就業体験）コース コーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講者数	氏名	大学	所属等
ビジネス	ホテル・非営利組織	B1	6	上田 修三	京都光華女子大学	キャリア形成学部
	小売・士業・コンサルティング 他	B2	7	加藤 康	京都経済短期大学	経営情報学科
	観光・旅行/不動産・建築設計/その他	B3	6	岸岡 洋介	京都外国語大学	共通教育機構
	教育(学校・大学等)	B4	9	古谷 伸子	大谷大学	社会学部
	教育(学校・大学等)	B5	6	澤井 志保	京都産業大学	外国語学部
	エンタテインメント・レジャー 他	B6	8	須賀 涼太	京都産業大学	経営学部
	製造(食品/半導体・精密機器)	B7	7	関 智宏	同志社大学	商学部
	ホテル・旅館/不動産・建築設計/製造(アパレル)	B8	7	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	キャリア形成学部
	商社/証券/情報・通信・IT	B9	8	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	マスコミ・出版・デザイン・他	B10	6	○ 濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	証券・保険/コンサルティング等/教育	B11	7	三保 紀裕	京都先端科学大学	経済経営学部
パブリック	滋賀県官公庁・NPO	P1	8	○ 黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部
	滋賀県官公庁・NPO	P2	6	平本 毅	京都府立大学	文学部
	官公庁	P3	7	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	京都府・滋賀県官公庁・他官公庁	P4	7	松村 千鶴	京都府立大学	教職センター
	京都市・他官公庁/NPO	P5	6	山岸 達矢	京都橘大学	経済学部
	官公庁	P6	5	戸田 香	京都女子大学	ジェンダー教育研究所

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、本プログラムが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1.実施日

エクスターンシップ(就業体験)コース

2024年6月15日～6月22日／2024年9月14日～

プロジェクト企画実践コース

2024年6月14日～6月20日／2024年11月15日～

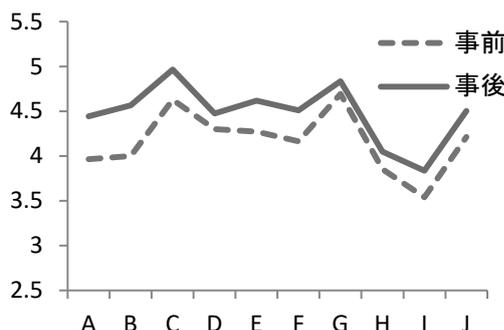
2.回答数

	実習許可 者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
エクスターンシップ(就業体験)コース/ビジネスクラ	78	107	87.7%	95	77.9%
エクスターンシップ(就業体験)コース/パブリックク	44				
プロジェクト企画実践コース	20	19	95.0%	19	95.0%
合計	142	126	88.7%	114	80.3%

表-2. 意識調査結果(比較)

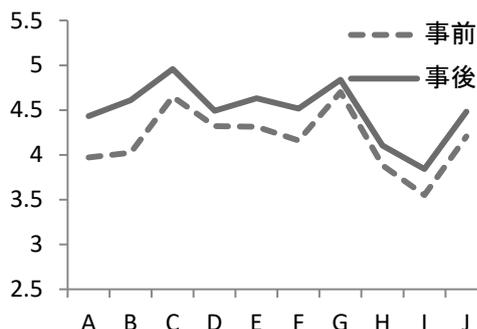
<全体>

全体の結果については、就業体験型のビジネスコース/パブリックコースの変化を大きく反映するものであるが、両コースの共通点として「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きい。このことから、本プログラムへの参加により、社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



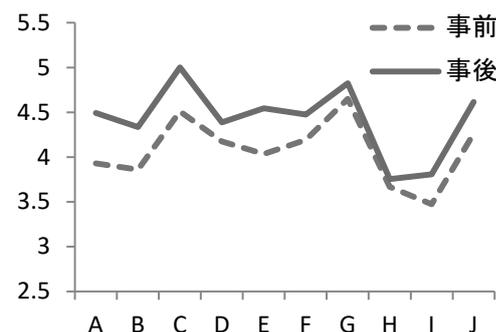
<エクスターンシップ(就業体験)コース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」及び「自己主体性」の項目にあたるI「社会へのコミット感」、J「自己理解」の変化が大きい。これらは、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしたと考えることができる。



<プロジェクト企画実践コース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。事前調査と事後調査の変化については、特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が大きな変化をもたらしたと考えることができる。また、プロジェクト開始時に、行動力や最後までやりとげる力を身につけたいと話していた実習生が多かったことから、E「実行力」の変化も大きく延びている結果となった。



資料8. 受講生意識調査集計結果
表-1. 意識調査の指標と平均点

		実習前					実習後				
		エクスターナシブ		プロジェクト企画実践		全体	エクスターナシブ		プロジェクト企画実践		全体
		平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	
就職レディネス	A 職場の人間関係への理解	4.47	4.42	4.46	4.46	4.79	4.79	4.79	4.79	4.79	4.79
	B 組織で働くことへの理解	3.64	3.74	3.65	3.93	4.24	4.24	4.63	4.49	4.31	4.44
	C 学生と社会人の区別	3.81	3.63	3.79	3.79	4.26	4.26	4.05	4.05	4.23	4.23
	D ジェンダー問題への気づき	4.30	4.16	4.28	4.28	4.73	4.73	4.47	4.47	4.68	4.68
	E 実行力	4.03	3.84	4.00	3.86	4.56	4.56	4.37	4.33	4.53	4.56
有能感	F 環境適応力	3.75	3.58	3.72	3.72	4.55	4.55	4.16	4.16	4.48	4.48
	G 柔軟な物事の見方	4.95	4.53	4.89	4.89	5.11	5.11	4.89	4.89	5.07	5.07
	H 生活規律	4.07	4.00	4.06	4.51	4.74	4.74	5.06	5.00	4.75	4.97
	I 社会へのコミットメント	4.92	5.00	4.93	5.00	5.03	5.03	5.05	5.05	5.08	5.08
	J 自己理解	4.00	3.74	3.96	3.96	4.32	4.32	4.05	4.05	4.27	4.27
自己主体性	職場の人間関係の難しさがある程度知っている。	4.69	4.42	4.65	4.18	4.78	4.78	4.79	4.39	4.78	4.47
	仕事上の優れたリーダーシップのあり方が分かる。	4.27	4.37	4.29	4.29	4.38	4.38	4.32	4.32	4.37	4.37
	職業人としての礼儀、作法を心得ている。	4.36	4.00	4.30	4.30	4.63	4.63	4.63	4.63	4.63	4.63
	上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。	4.72	4.05	4.62	4.04	5.03	5.03	4.95	4.54	5.02	4.62
	働くことがどうにか知っている。	3.87	4.05	3.90	4.05	4.23	4.23	4.05	4.05	4.20	4.20
有能感	組織がどのように運営されているのかある程度わかる。	4.08	4.21	4.10	4.10	4.49	4.49	4.16	4.16	4.44	4.44
	学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。	4.28	4.26	4.28	4.19	4.43	4.43	4.52	4.47	4.42	4.51
	意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。	4.11	4.11	4.11	4.11	4.62	4.62	4.89	4.89	4.67	4.67
	定職に就かずフリーターとしてやっていくことはいやだ。	4.48	4.42	4.47	4.47	4.72	4.72	4.79	4.79	4.73	4.73
	社会の裏側にある汚い面がある程度知っている。	4.50	4.42	4.49	4.65	4.79	4.79	4.84	4.82	4.73	4.84
自己主体性	今の社会では、女性が働き続けることは大変である。	5.12	5.11	5.12	5.12	5.01	5.01	5.26	5.26	5.05	5.05
	やるべきことを実際、行動に移せる。	4.09	3.89	4.06	3.67	4.14	4.14	3.84	3.84	4.09	4.09
	やるべきことを最後までやり遂げることができる。	3.92	3.53	3.86	3.67	3.92	3.92	3.32	3.75	3.82	4.05
	与えられた仕事を上手こなす自信がある。	3.64	3.58	3.63	3.63	4.26	4.26	4.11	4.11	4.24	4.24
	異なった状況や環境にうまく適応できる方だ。	3.80	3.58	3.77	3.77	4.03	4.03	4.00	4.00	4.03	4.03
自己主体性	広い視野で物事を捉えるようにしている。	2.98	3.16	3.01	3.47	3.27	3.27	3.84	3.81	3.20	3.84
	いろいろな困難に耐えうる精神力がある。	3.87	3.68	3.84	3.68	4.22	4.22	4.58	4.58	4.28	4.28
	人間関係を通して学ぶべきを知っている。	4.47	4.42	4.46	4.42	4.72	4.72	5.05	5.05	4.77	4.77
	今、規則正しい生活を送っている。	4.35	4.37	4.35	4.26	4.56	4.56	4.74	4.61	4.59	4.50
	毎日休まず働くことができると思う。	3.80	4.00	3.83	4.00	4.17	4.17	4.05	4.05	4.15	4.15
自己主体性	取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。	4.47	4.42	4.46	4.42	4.72	4.72	5.05	5.05	4.77	4.77
	自分は社会にとって必要な人間だと思う。	4.35	4.37	4.35	4.26	4.56	4.56	4.74	4.61	4.59	4.50
	いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある。	3.80	3.58	3.77	3.77	4.03	4.03	4.00	4.00	4.03	4.03
	社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。	2.98	3.16	3.01	3.47	3.27	3.27	3.84	3.81	3.20	3.84
	自分に欠けている部分をきちんと把握している。	3.87	3.68	3.84	3.68	4.22	4.22	4.58	4.58	4.28	4.28
自己主体性	自分の興味・関心について人に説明できる。	4.47	4.42	4.46	4.42	4.72	4.72	5.05	5.05	4.77	4.77
	自分の進むべき道を十分に認識している。	4.35	4.37	4.35	4.26	4.56	4.56	4.74	4.61	4.59	4.50
	自分の進むべき道を十分に認識している。	3.80	4.00	3.83	4.00	4.17	4.17	4.05	4.05	4.15	4.15

2024年度産学連携教育プログラム実施報告書

発行日 2024年12月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
教育事業部 産学連携教育事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

ポータルサイト

<https://consortiumkyoto-internship.jp/>

公益財団法人大学コンソーシアム京都ウェブサイト

<https://www.consortium.or.jp/>
